

小規模校における利点と課題

利点			課題		
学生	小	児童生徒間でのコミュニケーションや人間関係が深まる	学生	小中	意見の交換が少なく、協学心が湧きにくい
学生	小中	児童生徒全員の状態が把握しやすい	学生	小中	クラス中での競争心がなくなる
教育	小中	個性や特性に応じたきめ細やかな指導ができる	学生	小中	クラス替えが無いと、仲間関係が変わらない
運営	小中	学級数に対して、特別教室・体育館・運動場の割り当てが多くなる	学生	中	部活動の選択肢が限られる
			教育	小中	学校行事などの種類が限られ、学校の活性化が図りにくい
			運営	小中	授業の取組や教材等の研究・意見交換が少なくなる
			運営	小中	PTAや地域への負担が大きくなる
			運営	小中	競技会の練習で人数が足りない
			運営	中	教科ごとの選任科目の教職員の人数が足りない
			運営	小中	教員の研修や教材研究の機会が欠ける
教育	小中	一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細やかな指導が行いやすい	学生	小中	クラス替えが全部または一部の学年でできない
学生	小中	意見や感想を発表できる機会が多くなる	教育	小中	クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
学生	小中	様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる	教育	小中	加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい
運営	小中	運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える	学生	中	クラブ活動や部活動の種類が限定される
運営	小中	教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、ICT機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である	教育	小中	運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
教育	小中	異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる	運営	小中	男女比の偏りが生じやすい
教育	小中	地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい	学生	中	上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる
運営	小中	児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる	教育	小中	体育科の球技や音楽家の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
			教育	小中	班活動やグループ分けに制約が生じる
			教育	小中	教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる
			学生	小中	生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける
			教育	小中	児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
			教育	小中	教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる
			運営	中	経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が困難となる
			運営	小中	教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある
			運営	小中	児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある、多様な価値観に触れさせることが困難となる
			運営	小中	チーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが困難となる
			運営	小中	教職員一人当たりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない
			運営	小中	学年によって学級数や学級当たりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生ずる
			運営	小中	平日の校外研修や他校で行われる研究協議会等に参加することが困難となる
			運営	小中	教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達が生じにくい(学年会や教科会等が成立しない)
			運営	小中	学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある
			運営	中	免許外指導の教科が生まれる可能性がある
			運営	中	クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる
			学生	中	集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身に付きにくい
			教育	小中	児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
			学生	小中	協働的な学びの実現が困難となる
			学生	中	教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある
			学生	小中	切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい
			学生	小中	教員への依存心が強まる可能性がある
			学生	中	進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある
			学生	小中	多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい
			教育	中	多様な活躍の機会が無く、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい

過小規模校における利点と課題

利点			課題		
			学生	小中	授業時間の半分は自習時間になる
教育	小中	教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる	教育	小中	教員に特別な指導技術が求められる
			教育	小中	複数学年分や複数教科分の教材研究・指導準備を行うことになるため、教員の負担が大きい
			教育	小中	単式学級の場合と異なる指導順となる場合、単式学級の学校への転出時等に未習事項が生じるおそれがある。
			学生	小中	実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる
			学生	小中	兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約を生ずる可能性がある